



# 世界の農業・農政

## タイの米政策の近年の動向

国際領域 上席主任研究官 井上 荘太郎

### 1. はじめに

タイは東南アジア最大の、食品と農産物の輸出国です。タイでは2006年に当時のタクシン首相を追放した軍事クーデター以来、15年にわたって、不安定な政治状況が続いています。この間、選挙による政権交代だけではなく、過激な反政権運動や軍事クーデター、そして司法による首相解職や政党の解党処分が繰り返されてきました。そして2014年の軍事クーデター後、5年を経て、2019年ようやく総選挙が行われ、民政移管が実現しました。

本稿では、近年のタイの政治経済の動向と、総選挙後に成立した現在の連立政権の米政策を紹介しします。

### 2. 連立政権の発足

5年ぶりに行われた2019年の総選挙は、ドイツなどで行われている小選挙区比例代表併用制が採用されました。この制度では小選挙区の勝敗にかかわらず、各政党の議席総数は、全体の得票率に応じて決定されます。ただし小選挙区での勝利者は、各政党に配分された総数の中で、優先的に議席を得ることができるという仕組みです。つまり実質的には、完全比例代表制に近いものです。この制度変更により、タクシン元首相を支持するタイ貢献党は、いかに小選挙区の選挙に強くとも、地滑り的な勝利を得ることは不可能になりました。加えて、国会での首相選出では、上院議員にも投票権が与えられました。上院議員は全員がプラユット軍政の指名に基づいて選ばれていますので、軍政に有利な選挙制度になったと言えます。

総選挙の結果、タクシン派のタイ貢献党は第1位の議席数を得ましたが、過半数を得ることはできませんでした。そのためクーデターを起こしたプラユット首相が党首の国民国家の力党が、民主党などの少数政党と連立して、そのまま新たに民政の政権として内閣を発足させました。

### 3. 経済動向

長期にわたる政治的混乱は外国からの投資を抑制し、またタイ政府による通商協定の交渉を阻害するなど、タイ経済に負の影響を与えてきました。21世紀に入って以降、タイの経済成長率がASEAN5の平均を上回った年は、2年に限られています(図1)。

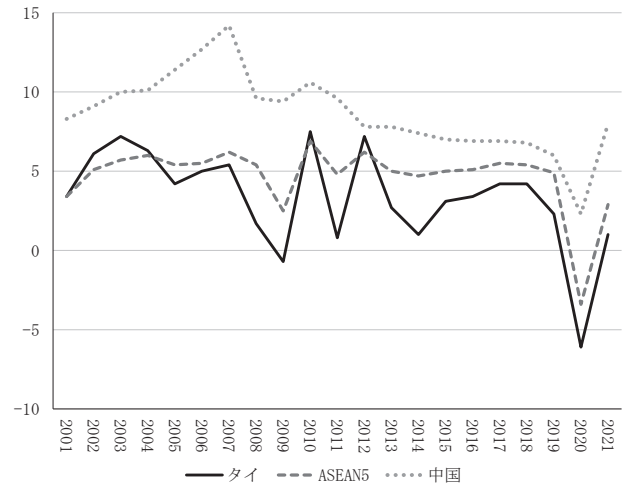


図1 実質GDP成長率(対前年比、%)の動き

注1) ASEAN5はインドネシア、フィリピン、マレーシア、シンガポール、タイ

資料: IMF World Economic Outlook (October 2021)

<https://www.imf.org/external/datamapper/datasets/WEO>

そして観光の盛んな経済構造のタイは、2020年からの新型コロナウイルスパンデミックで大きな影響を受けています。タイの国家経済社会開発委員会の2021年11月の発表によると2020年の経済成長率は通年で前年比6.1%のマイナスを記録し、中でも宿泊・飲食サービス部門は36.6%のマイナスでした。2021年には経済の回復が期待されていますが、宿泊・飲食サービス部門などの回復の遅れは、経済成長全体の足を引っ張ることが見込まれています。

### 4. 連立政権の米政策: 不足払い政策の導入

稲作農家に対する保護政策は、財政支出の規模も大きく、そして関係する農家数も多いので、農業政策の中心となっています。タイでは21世紀初頭のタクシン政権以来、価格支持政策と不足払い政策が入れ替わる形で実施されてきました。2019年からの連立政権では、10年前に実施された民主党の不足払い政策に似た政策が復活しました。

現在の米の不足払い政策は、米の市場価格が、政府の定める保証価格を下回った場合に、差額を補助金として農家に支払います。保証価格の水準によって、実際に支払われる補助金の額は変動します。2019年8月に発表された、米農家とアブラヤシ農家への支援策は、総額約600億バーツ(1バーツは約3.5円)でした。そのうち米の保証価格と市場価格

の差額の支払に充当される予算は、約215億バーツとされ、生産農家89万2,176戸が対象となりました。米についてはこれに加えて、生産支援の名目で、約430万の米農家に対して約258億バーツが支給されることとなりました。1戸当たりの上限は20ライ（1ライは約0.16ヘクタール）で、1ライ当たり500バーツです。そしてアブラヤシ農家に対しても、保証価格と市場価格との差額が、1戸当たり25ライを上限に支払われることになり、こちらの総額は約130億バーツでした。こうした米やアブラヤシの農家に対する政府の補助金は、農業・農業協同組合銀行（BAAC）の口座を通じて農家に支払われます。

この政策は、保証価格と保証上限数量を、品目に合わせて細かく設定していることも特徴です（表1）。

香り米でない普通米（水分含有率15%）の保証価格は、1万バーツ/トン（上限数量は30トン）なのに対して、香り米（ジャスミン米）は、1万5,000バーツ/トンと約5割増しとする一方で、1農家当たりの上限数量は14トンと、普通米の半分以下になっています。ジャスミン米の高い市場価格の水準に合わせて保証価格を設定すると同時に、1戸当たりの保証上限数量を大幅に制限することで、大規模農家に政府の支援が集中しない仕組みになっています。そしてジャスミン米の生産者は小規模な農家の割合が高いので、上限数量が小さいことへの抵抗は、比較的小さいと考えられます。

また、ジャスミン米よりも品質が劣るとされるパトゥムタニ香り米の保証価格は1万1,000バーツ/トンで、上限数量は25トンです。保証価格、上限数量とも普通米とジャスミン米の中間に設定されました。もち米の保証価格は1万2,000バーツ/トン、上限数量は16トンで、どちらもパトゥムタニ香り米を少しずつ上回っています。また県産香り米と呼ばれる品種は、保証価格1万4,000バーツ/トンで、もち米を2,000バーツ/トン上回り、上限数量はもち米と同じ16トンです。

また、この不足払い政策に加えて、2019年11月には、米の市場価格の安定化を目的として、稲作農家に対して、（1）収穫期の市場価格の急落を避けるために米の出荷を遅らせる農家に対する資金融資、（2）米の高付加価値化に対する資金融資、（3）米の取引業者への借入金の返済への利子補給の三つの施策が実施されました。一連の施策は、2020/21年においても、同様の仕組みが継続されています。

なお、こうした保護政策はアブラヤシ、天然ゴム、トウモロコシ、キャッサバでも計画・実施されています。このように、2019年からの連立政権では米に関する農業政策のメニューが増え、他作目も含めて農業保護が拡充したと考えられます。

## 5. おわりに

世界銀行によると、タイは上位中所得国に分類される発展段階にあります。経済成長に伴う農工間の所得格差の拡大に対応して、タイ政府は、時期によって強弱はあるものの、長期的には、農業保護の傾向を強めてきました。しかし、タイは農産物の多くを輸出に依存しており、農業保護はWTOなどの国際規律に従う必要があります。

こうした状況を踏まえると、今後タイ政府は米政策について、①WTOの約束水準を超過しないこと、②横流しなどの不正を防ぐ透明な仕組み、③政策介入による恩恵が大規模生産者や流通・加工業者等に偏在しない公平な制度、④市場歪曲性の小さい効率的な制度設計、⑤農民からの支持を得られるという政治的効果などの点を考慮する必要があるでしょう。

現在のプラユット政権による保証上限付きの不足払い政策は、透明性、公平性、効率性といった基準に照らせば、かつて実施され、大きな混乱を引き起こした担保融資制度（実質上の高額買取制度）に比較して、持続可能性の高い政策と考えられます。ただし、かつての民主党による同種の政策（2009年～2011年）は、タイ貢献党の大規模な質入れ米政策の公約に選挙で支持を奪われたこともあります。2019年に現在の連立政権が成立した後も、伝統的な政治勢力と新興の政治勢力との対立は続いており、加えて若年層を中心とした、王室体制に対する批判的なデモや集会も続いており、タイの不安定な政治状況は継続しています。政策変化によってタイの米の生産・輸出動向が大きな影響を受ける可能性は依然として存在しているので、今後も政策動向に注目していきたいところです。

### 【参考文献】

井上莊太郎（2021）「第1章 タイ—民政移管と連立政権の農業政策—」農林水産政策研究所『プロジェクト研究 [主要国農業政策・貿易政策] 研究資料第6号』。

表1 プラユット政権の品種別の米価格保証政策（2019/20作物年度）

項目	白米	香り米（ジャスミン米）	パトゥムタニ香り米	もち米	県産香り米
保証価格（バーツ）	10,000	15,000	11,000	12,000	14,000
保証上限数量（トン）	30	14	25	16	16
上限作付面積（ライ）	40	40	40	40	40

資料：報道より筆者作成。

注1）保証上限数量あるいは上限作付面積のどちらかが適用される。

注2）2020/21年度も対象品種、保証価格、上限数量、上限作付面積は同様であった。